

日蓮大聖人御書全集

ときどのごへんじ

土木殿御返事

えっしゅうちやくなん

めあま こと

（越州嫡男ならびに妻尼の事）

新版
1300

ときどのごへんじ えつしゅうちやくなん

めあま こと

土木殿御返事（越州嫡男ならびに妻尼の事）

ぶんえい ねん

がつ にち

さい

ときじょうにん

文永10年（73）

11月3日

52歳

富木常忍

くがつこのか

ふみ

どうじゅうがつにじゅうしちにちひらいつかまつ

そうら

お

九月九日の鴈鳥、同十月二十七日飛来仕り候い了わ

んぬ。

えつしゅう

ちやくなん

めあま

おんこと

ぜひ

し

そもそも、越州の嫡男ならびに妻尼の御事、是非を知ら

ごいちもん

おんこと

むほん

ほか

いじまる

ざれども、この御一門の御事なれば、謀反よりの外は異島流

ざい かぶん

罪は過分のことか。

しじょうさぶろうざえもののじょうどの

たより

いま

まい

つ

はたまた、四条三郎左衛門尉殿の便風、今に参り付かざ

じょう

なにごと

さだ

さぶろうざえもののじょうどの

もう

むねそうろう

るの条、何事ぞや。定めて三郎左衛門尉殿より申す旨候

か。

いよどの

ぞんがい

せいじようちしや

とうじ

がくもんひまな

伊予殿のこと、存外に性情智者なり。当時、学問隙無く

つかまつ

そうろう

ほうび

まこと

きりようもの

らいねん

仕り候なり。褒美にあらず、実に器量者なり。来年

しょうがつ

だいしんのあじやり

えつちゆう

つか

さ

正月、大進阿闍梨と越中にこれを遣わし去るべし。

しろこそでひと

た

そうら

お

ことし

にほんこくいちどう

けかち

白小袖一つ給び候了わんぬ。今年、日本国一同に飢渴

うえ

さどのくに

しちがつなのかいげ

てん

いしばいむし

の上、佐渡国には七月七日已下、天よりたちまちに石灰虫と

もう

むし

あめふ

いちじ

とうこくそんしつ

うえ

えきえきしよしよ

へん

申す虫、雨下り、一時に稲穀損失し、その上、疫々処々に遍

まん

ほうぼうしなんのが

がた

ことごとしじよう

つ

がた

そうろう

満し、方々死難脱れ難きか。事々紙上に尽くし難く候。

きようきようきんげん

恐々謹言。

じゅういちがつみつか

十一月三日

ときどのごへんじ

土木殿御返事

にちれん

日蓮

かおう

花押